



いよいよ明日で1学期も終了します。この1学期は、始業式後間もなく1ヶ月半の臨時休校になるなど、教育活動やPTA活動なども新型コロナウイルス感染症に翻弄された学期でした。このような厳しい状況においても、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のおかげで教育活動を進めることができました。心よりお礼申し上げます。

ただ、急遽、授業参観も中止しましたが、ご承知の通り7月の後半から、新型コロナウイルス感染症の拡大が県内においても益々予断を許さない状況になってきました。学校でも、改めて基本となるマスクの着用や手洗いの励行、換気対策や消毒等について徹底していくように共通理解を図り取り組んでいるところです。夏休み期間におきましても、感染拡大防止に向けて子どもたちへのご指導を各ご家庭でよろしくお願いいたします。

また、感染の報道等からしても、現状では、「だれでも」、また「どこでも」感染する可能性があり、感染者への誹謗中傷など心ない言動には十分に気をつけなければならないと痛感します。ご家庭でも、こうした点についても、子供たちと話題にして頂ければ幸いです。

災害派遣で八竜小に



長かった梅雨がやっと明けました。各地に豪雨災害をもたらした今年の梅雨でした。

県南部の豪雨災害も大きな被害が生じており、学校等も休校や移転を余儀なくされているところもあり、一日も早い復旧復興を願うばかりです。そのような中、本校の岩田養護教諭が7月26日から1週間、八代市坂本町の八竜小学校に災害派遣として支援に行ってきました。

下は、その感想です。

被災地派遣を経験して

養護教諭 岩田

令和2年7月豪雨は熊本県南部に大きな被害をもたらしました。八代市坂本町にある八竜小学校では高台にある校舎には被害はなかったものの、球磨川沿いの通学路の寸断、家の流失、断水などで再開の見通しは立っていません。現在は八代市内の2カ所に分かれて授業や心のケアを行っています。今回、私は養護教諭として派遣され、保健室対応を行いました。被災から一週間は学校の休校が続き、友達に会えない日々が続きましたが15日から授業が再開し、笑顔で再会することができたようです。新しいランドセルや制服も支援物資として届き、嬉しそうにしていました。しかし、避難所生活が続いている児童は心の不安定な状況が続き、週の後半には、泣きながら登校してきた女の子がいました。理由は宿題が分からなかったということでしたが、この状況で頑張りすぎる児童生徒も多いようです。先が見えない現状に、子ども達は相当なストレスを抱えていると思われます。熊本地震同様、長期的なケアが必要だと感じました。

今回経験したこと、感じたことを本校での子供たちへのかかわりにも生かしてくれるものと思います。なお、岩田教諭は、今週も2日間、八竜小が間借りする八代市日奈久小学校へ支援に向かう予定です。